

スライド 1



【ト書き】(ゆっくり受講者の顔を見渡し、安心感のある柔らかい声で話始める。)

皆さま、本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。
これから「医療安全管理スタンダードスキル研修」を行います。

医療現場は、常に多重課題・多岐にわたるリスクに直面しています。
その中で私たちが守りたいものは、患者さんの安全と、そして働く私たち自身の安全です。

しかし、医療安全は「注意力を強めること」では守れません。
人は必ずミスを行います。これは弱さではなく、人間である以上避けられない特性です。

だからこそ本研修では、“注意ではなく、システムと文化で安全を守る”という現代の医療安全の本質を、
皆さんと一緒に学んでいきます。

スライド 2



To Err is Human — 人は必ずミスをする。だから仕組みで守る —

- ・ヒューマンエラーは「性格」ではなく「環境・システム」の問題
- ・注意力の強化では事故は減らない
- ・安全は「仕組み」「標準化」「文化」で守る

医療安全の世界で最も有名な言葉は「To Err is Human (人は必ずミスをする)」です。

これは「人間はダメだ」という意味ではありません。

むしろ逆で、人間はミスをするからこそ、ミスが起きても被害が最小になる仕組みを作る必要があるという前向きな考え方です。

私たちがよく耳にする「もっと気をつけて」「注意不足だったんじゃない？」という言葉は、
医療安全の観点では本質的ではありません。

© 2023 医療安全協会

スライド 3



医療安全の3本柱

- ① システム（仕組み） 事故が起きても被害を最小化する構造。
- ② 標準化（ルール） 誰がやっても同じ安全行動ができるようにすること。
- ③ 文化（心理的安全性） 報告できる、相談できる、学び合える風土。

医療安全は、この3つの柱が揃って初めて実現できます。
まず1つ目はシステム（仕組み）。事故が起きても被害が最小になるように、「二重チェック」「環境整備」「情報共有」などの仕組みを整えます。

2つ目は 標準化（ルール）。

誰が担当しても、同じ安全行動ができるようにすることです。

例えば、

・6R

・独立ダブルチェック

スライド 4



病院全体の安全理念と目標 — 組織として“安全を守る意思”を明確化する —

・安全理念：患者・家族・職員の安全を最優先
・事故防止の具体的目標（年度ごとに設定）
・全職員で共有する「安全の価値観」

【ト書き】（少しゆっく

医療安全は、現場の努力だけでは実現できません。

まず必要なのは、病院全体として「安全を守る意思」を明確にすることです。

安全理念とは、「私たちは患者さん・ご家族・職員の安全を最優先にする」という組織の価値観そのものです。

そして理念を“言葉だけ”で終わらせないために、年度ごとの具体的な安全目標を設定します。

例としては、

・転倒転落の削減

・誤薬ゼロ